



成田空港のその下に
“あの時代”が埋まっている。

三里塚の

The Fall of
Icarus:
Narita Stories

代島治彦監督作品

Web予約
PC・モバイル共通



<https://goo.gl/aWKwjh>

イカロス

日時 2018年6月14日(木) 19:00~

会場 大竹財団会議室

東京都中央区京橋1-1-5セントラルビル11F

参加費 一般=500円/学生、大竹財団会員=無料

定員30名【要予約】

主催 一般財団法人大竹財団

03-3272-3900

<http://ohdake-foundation.org>



成田／三里塚で
農民とともに
闘った若者たちがいた。
誰にも語らなかつた
“あの時代”と
その後の50年の
記憶。

三里塚のイカロス

代島治彦監督作品

The Fall of Icarus: Narita Story

サンリヅかって何ですか？ “あの時代”って何だったんですか？

ある日突然、この土地に空港を作るから出て行きなさいと言われた農民たちの闘い。それが日本で最大の、そして最後の国家権力に対する抵抗運動、成田空港建設反対闘争だ。成田市三里塚の農村地帯に巨大空港を作ることを決定した政府による暴力的な土地収奪に、農民たちは抵抗運動を開始した。そこに、若者たちが集まった。農民たちの抵抗を支持し、三里塚を革命のための拠点とし、すべては変えられると信じていた若者たちが。あれから50年。“サンリヅカ=三里塚”から毎日、海外旅行へと人々が出発つ。そこでかつて何があったのか。多くの若者は知らない。忘れてしまった人も多い。成田空港のその下に“あの時代”が埋まっていることを。



<管制塔占拠>とは

空港建設反対派農民を支援する新左翼グループの行動隊が、1978年(昭和53年)3月26日、開港間近の空港に乱入し、管制塔を占拠・破壊。人を傷つけず、人質をとらず、目的を遂げると深く捕まった。反対闘争の中でも、国家権力に対する希有な勝利と記憶されている。2005年に政府は民事裁判で管制塔破壊に対して一億円の賠償金を請求したが、全国からのカンパによって被告たちは国交省に現金で一億円を支払う。2018年は管制塔占拠40周年、記念講演会等も相次ぐ。



製作・監督・編集 代島治彦 | 出演 加瀬勉 岸宏一 秋葉恵美子 秋葉義光 前田深雪 吉田義明 平田誠剛 中川憲一 前田伸夫 加藤秀子 | 撮影 加藤孝信 | 音楽 大友良英 | 写真 北井一夫 | 録音 滝澤修 | 制作 スコブル工房 | 企画・製作 三里塚のイカロス製作委員会 | 宣伝デザイン 鈴木一誌 | 配給 ムヴィオラ、スコブル工房 2017年/日本/カラー&白黒/138分/DCP/5.1ch

www.moviola.jp/sanzuzuka_icarus



三里塚の農民とともに 国家権力と闘った若者たちの “あの時代”と“その後の50年”。

本作は「映画芸術」日本映画ベストテン第3位、日本映画ペンクラブ文化映画部門第2位などに輝いた「三里塚に生きる」(2014)の姉妹編である。前作が国家と闘った農民を中心に描いたのに対して本作は農民とともに闘った若者たちの人生を描く。三里塚闘争の責任者だった者、農民支援に入った農家の若者と恋をして結婚した女性らその他、農民運動家や元空港公団職員などがこれまで誰にも語らなかった“あの時代”と“その後の50年”の記憶を語っている。三里塚現地責任者を務めた元中核派政治局員・岸宏一は、本作完成後、今年3月26日、谷川岳で遭難。本作が貴重な最後の証言となった。音楽は大友良英によるフリージャズ。撮影は小川プロ出身の加藤孝信、劇中印象的なイカロスの絵は、『PRIVATE WORLD』で知られる下田昌克が手がけている。

三上智恵さん (映画監督)

遥か南の辺野古に届いている。しかし不屈の風は 葬られてはいない。 遥か南の辺野古に届いている。 ジェット機は飛び立つ。 その大地を滑走し 自らの翼を焼いて墜落した。 若者たちの熱は 農民闘争を超え先鋭化する

鴻上尚史さん (作家 演出家)

左翼の人も右翼の人も あらゆる立場の人に 見てもらいたい。 ここには「生活のリアル」と 「人生の時間」がある。



JR東京駅八重洲中央口から徒歩4分 (八重洲地下街24番出口右階段すぐ)

京橋駅7出口から徒歩3分/日本橋駅B3出口から4分